

○第 129 回（令和 4 年 5 月 20 日）

審議事項	学外委員からの意見	会議当日の回答
1 令和5年度施設整備費概算要求事項（案）について	（特になし）	
2 共同研究に要する間接経費について	（特になし）	
3 学生宿舎リニューアル計画基本構想について	<p>①賃料について、学生にとって過度な負担とならないように適正な料金設定を行ってほしい。また、経済状況が厳しい学生に対しての支援も準備していただきたい。</p> <p>②学生同士のコミュニケーションが活性化されるような、共用スペースの多い建物にしてほしい。また、学生の利用率が上がるよう、学生自身にその構想を考えさせてはどうか。</p>	<p>①賃料については、大学周辺の賃貸アパートの実勢価格を想定している。また、入居率が6~7割程度で黒字となるため、残りの3割分で経済支援を考えていきたい。</p> <p>②いただいた意見を踏まえて、今後の具体的な計画を立てていきたい。</p>
4 Sport Complex for Tomorrowに係る基本構想（案）について	<p>①大学債を用いて施設整備を行うならば、その償還計画が非常に重要になるため、年間を通して施設を利用してもらえるようにしっかりと事業計画を立てていく必要がある。</p> <p>②観客席は設けないのか。</p>	<p>①学内の体育関連組織において学内外での利用計画を立案中である。</p> <p>②本施設はコーチングや研究のデータ収集をメインとする施設となっているため、観客席は設けていない。なお、別途計画が進んでいるITF.Forum（仮）のアリーナには観客席を設けている。</p>

	<p>③筑波大学は多くの体育施設を保有しているので、全体的な新規運用計画も進めてほしい。</p> <p>④外部法人が施設の運営を行うとあるが、具体的にはどのような形態をとるのか。</p>	<p>③おっしゃるとおりであり、全体的な計画を先ほども述べた体育関連組織で立案中である。本施設の整備は、その第1期という立ち位置になる。</p> <p>④外部法人に施設の運営を業務委託し、人を派遣してもらうという形態を想定している。</p>
5 令和4年度におけるウクライナからの学生等の支援に関する特別措置について	(特になし)	

報告事項	学外委員からの意見	会議当日の回答
1 令和4年度学群及び大学院入学試験実施結果について	<p>①留学生の比率の変化を教えてください。</p> <p>②昨今の社会に対する情報開示の加速や、学生へのアピールの観点から、入試データをより分かりやすく加工して公表する必要があるのではないか。</p>	<p>①コロナ前にピークに達し、年々減少してきていたが、令和4年度は少し回復したという状況である。</p> <p>②入試データの公表にあっては、受験生の視点なども意識して、より分かりやすい公表方法について検討していきたい。</p>
2 第206回及び第207回教育研究評議会報告について	(特になし)	

○第130回（令和4年6月8日）

審議事項	学外委員からの意見	会議当日の回答
1 国立大学法人評価（第3期中期目標期間終了時評価）に係る中期目標の達成状況報告書及び業務の実績に関する報告書について	①日本における国際バカロレア（IB）の更なる普及のために、IB教員資格をもつ日本人教員を育成する仕組みが必要だと考えられるが、いかがか。	①ご指摘の点は承知しており、平成29年度に教育学（国際教育）修士プログラム（現・国際教育サブプログラム）を設置し、人材の育成を行っている。
2 令和3年度財務諸表について	①附属病院の収益増加の要因は手術件数の増加で	①ご指摘のとおりであり、今後も手術室を増やす予

	あるか。  ②附属病院においては診療収入から人件費を捻出しているのか。また、定員は決まっているのか。  ③前年度に比べて受託研究費の額が大きく増加しているが、その要因は何か。	定である。  ②教員の人件費については、業務のエフォート率によって大学本部と附属病院の負担割合を決定している。また、大学としての定員外で附属病院経費のみで採用している教職員もいる。  ③各教員組織での地道な努力と、ニーズドリブン型の大型共同研究を推進した結果である。
3 大学債について	①大学債を用いたプロジェクトの一つに未来社会デザイン棟（仮称）の整備があるが、少子高齢化を意識した要素を加えてほしい。	①未来社会デザイン棟（仮称）には、高齢者向けのモデルルームを用意するという構想もある。また、ITF Forum（仮）には保育所や学童クラブの設置も検討している。
4 医療従事者等処遇改善に係る臨時特別手当の新設に伴う法人規則等の改正について	（特になし）	

報告事項	学外委員からの意見	会議当日の回答
1 令和3年度余裕金の運用実績等について	（特になし）	

○第131回（令和4年7月12日）

審議事項	学外委員からの意見	会議当日の回答
1 令和5年度国立大学法人運営費交付金概算要求について	①学術院総合戦略本部について、どのような組織になるのか。	①社会のニーズに沿った博士学生を育成するために、分野横断的に大学院のブラッシュアップを常に行っていく組織である。

	<p>②学術総合戦略本部について、リーディング大学院等の成果を活かして、大学院生の研究内容や修了後業績を可視化して、学生にも社会にもわかりやすくなるようにしていただきたい。</p> <p>③学術院総合戦略本部について、大学院生のジェンダーギャップの解消について言及があるが、筑波大学は女子学生数が既に多い大学であるため、より発展的な取組みを進めてほしい。</p> <p>④体育スポーツ局について、近年、「体育」という単語を「スポーツ」に統一するという流れがあるが、敢えて「体育スポーツ」局とする理由は何か。</p>	<p>②ご指摘の点の重要性は認識しており、そのような取組みを進めていく予定である。</p> <p>③承知した。博士後期課程に進学する学生が少ないことと、理系の大学院生に女性が少ないことには同じ理由があるのではないかと考えており、IR等の分析によってその理由を解明することにより、真の博士や女性研究者のロールモデルを作り上げていきたい。</p> <p>④本学の前身である高等師範学校・東京高等師範学校の校長を務めた嘉納治五郎先生が「体育」は心技体を鍛えることであり、「スポーツ」は体育の概念に競争とエンターテイメントが加わったものと定義しており、意味が異なるため敢えて「体育スポーツ」局としている。</p>
2 共同研究取扱規程等の一部改正について	(特になし)	

報告事項	学外委員からの意見	会議当日の回答
1 令和3事業年度財務諸表等の承認について	(特になし)	
2 国立大学法人筑波大学債の発行等の認可について	(特になし)	

3 文部科学大臣による出資に係る認可、及びつくばツインスパーク株式会社の設立について	(特になし)	
4 第4期中期目標・中期計画における「意欲的な評価指標」の申請について	①マレーシア分校の進捗状況について教えていただきたい。	①懸念となっていた現地法人設置の可否に係るマレーシア側との調整が付き、日本の国立大学法人として設置する方針が認められることとなった。今後は日馬両国の当局に対し具体的な設置申請を進めていく。
5 Tsukuba Global Science Week (TGSW) 2022 の開催について	(特になし)	
6 第208回教育研究評議会報告について	(特になし)	

○第132回（令和4年9月21日）

審議事項	学外委員からの意見	会議当日の回答
1 令和4年度学内第1次補正予算について	①現在、ここ何十年起きたことがないレベルの円安となっており、今後はこういった金融情勢も加味した予算立てを行っていただきたい。 ②ウクライナ学生の受入れ状況を教えていただきたい。	①承知した。教育研究費にも影響が出てきているため、人事院勧告への対応等も加味しながら調整していきたい。 ②今後50名を受入れる予定であり、第1弾として20名の受入れ準備を進めているところである。
2 令和4年度一般余裕金資金運用計画等の一部変更について	①大学債について、運用及び使用計画は理解したが、償還計画はどのようになっているのか。	①実施事業による収益での償還を予定している。

報告事項	学外委員からの意見	会議当日の回答
1 令和5年度概算要求について	①大学ファンドについてはなかなか全容が見えないが、このファンドからの配分を前提に学生支援を	①大学ファンドでの支援対象は国際卓越研究大学に採択された大学のみとなっており、それ以外の大

	<p>行う予定か。</p> <p>②経産省や文科省で多額の予算が経済安全保障関連事業についており、今後も新たに予算が付くと側聞しているが、経済安全保障関連でこれまでに行った、または、これから実施を検討している施策はあるか。</p>	<p>学については、地域中核・特色ある研究大学強化促進事業に申請してもらい、そちらで支援していくという構成になっている。現時点では、国際卓越研究大学の申請要件として、トップ10%論文の割合や毎年3%の支出成長等が検討されている。11月下旬から12月頃に申請書様式が公表される予定のため、その内容を確認したうえで、本学が申請するかどうか判断する予定である。</p> <p>②本学としては、8月にRU11で研究インテグリティに関するステートメントを公開したり、国際法に適合した世界的な安全保障の枠組みを提案する研究を始めたりしているところである。</p>
2 重要財産の譲渡について	(特になし)	
3 国立大学法人ガバナンス・コードの適合状況等の更新について	①資料の4.(3)にある監事からの指摘に対する具体的な検討案はあるのか。	①現状でお示しできる案はなく、これから検討していく予定である。
4 就業規則の改正について	(特になし)	
5 開発研究センターの評価結果について	(特になし)	
6 Tsukuba Global Science Week (TGSW) 2022の開催について	(特になし)	
7 第209回及び第210回教育研究評議会報告について	(特になし)	

8 その他	<p>①自身が審査員を務める若手研究者の賞等への筑波大学からの自他推薦がとても少ない。もっと積極的に推薦を行う必要があるのではないか。</p> <p>②広報も控えめである。広告業界にいる卒業生等を積極的に採用してはどうか。</p>	①～②承知した。なお、10月から報道機関OBを新たに雇用し、広報面の強化を図る予定である。
-------	---	---

○第133回（令和4年10月24日）

審議事項	学外委員からの意見	会議当日の回答
1 国立大学法人筑波大学附属学校職員の給与に関する規則の一部改正について	①従来の時間外勤務の管理はどのようになっていたのか。	①過半数代表者との取り決めで、「生徒指導等の緊急業務対応を必要とするとき」及び「その他業務運営上やむを得ないとき」の2点に該当する場合は、時間外勤務手当を支給するとしていた。

報告事項	学外委員からの意見	会議当日の回答
1 令和4年度組織評価の実施結果について	<p>①留学生率の指標があるが、大学としての目標値はあるのか。また、留学生を学生定員外とする議論が従前からあったが、現在の考え方はどのようになっているか。</p> <p>②報告書の評価結果にTOP10%論文に関する記述があるが、人文社会及び芸術分野はサイテーションのデータはなかったと記憶している。どのように運用しているのか。</p>	<p>①大学としては、第4期中期計画期間中に留学生率を5%とすることを目指している。また、留学生の定員の考え方としては、むしろ、定員化する方向に進んでいる。</p> <p>②ご懸念の件は承知しており、当該分野のデータが乏しく、大学全体で相対評価ができないため、経費配分の指標とはしていないが、TOP10%論文は重要な指標であるため、組織評価の項目としては入れているという状況である。</p>

	<p>③女性・外国人が上位職を目指せるような職場づくりをしてほしい。</p> <p>④卒業生・修了生の追跡調査の実施割合が低い、教育の改善のためにも、ぜひ実施してほしい。</p> <p>⑤若手教員の比率は、各系の努力ですぐに改善されるものではないため、毎年度の評価指標とするのはいかがなものか。</p> <p>⑥配分額が少なすぎて、教員へのインセンティブになっていないのではないか。</p>	<p>③承知した。</p> <p>④今までは個人情報の問題があり、システム的に調査依頼の連絡が出来なかったが、今年度入学者から卒業・修了後に連絡をすることについて許可を得たため、今後の実施率は向上していくと考えている。</p> <p>⑤ご指摘のとおりであり、文科省の成果配分の指標についても、その点を解消するために伸び率での評価方法を導入してもらった経緯がある。</p> <p>⑥本評価は組織に対するものであるため、配分される予算も、組織の改善に使用することを想定している。その意味では、インセンティブになっていると考える。</p>
<p>2 筑波大学社会的価値創造債の発行について</p>	<p>①公費ではなく、民間から調達した200億円という意識を持って運用してほしい。</p> <p>②今後、大学債の発行で得た資金の管理はどの組織が行っていくのか。</p>	<p>①承知した。例えば、未来社会デザイン棟では、学生たちに社会からの投資によってこのような環境を得られていることを意識させるような取り組みを行っていきたい。</p> <p>②現在は、資金運用委員会で管理しているが、将来的には本年度から新設した資金調達・運用課と既存組織である事業開発推進室のうえにCFOを置き、そこで管理することを考えている。</p>

3 令和4年度余裕金の運用実績等 (上半期)について	(特になし)	
4 第211回教育研究評議会報告に ついて	(特になし)	

○第134回(令和4年12月21日)

審議事項	学外委員からの意見	会議当日の回答
1 国家公務員の給与改定を踏ま えた本学の対応について	(特になし)	
2 医療従事者等特別手当への見 直しに伴う法人規則等の一部改正 について	(特になし)	
3 ヒューマンエンパワーメント 推進局の設置について	<p>①本組織の設置には、かなりの時間と労力をかけているが、どのような点に注意して検討を行ったのか。</p> <p>②本推進局の対応課題として「アントレプレナーシップ教育展開」が挙げられているのはなぜか、また、担当教員はどのような人物を想定しているのか。</p>	<p>①本学では、ダイバーシティや障害科学分野等で既に先進的な取組みを行っているが、まだ十分ではないところは何か、また、これからの社会に必要なっていく分野は何であるか等に注意して検討を行った。</p> <p>②アントレプレナーシップ教育は、普通の学問体系とは異なるヒューマンデベロップメントであるため、本推進局の業務としている。担当教員については、社会で活躍している本学の卒業生に依頼している。</p>
4 新型コロナウイルス感染症の 影響による学生の身分等に関する 特別措置について	(特になし)	
5 吾妻2丁目職員宿舎等の取り壊	(特になし)	

し計画の変更について		
------------	--	--

報告事項	学外委員からの意見	会議当日の回答
1 令和4事業年度「中間決算」について	①貸借対照表に大学債についての記載がないのはなぜか。	①大学債が本学に入金されたのは10月であったため、中間決算には反映されていない。年度決算においては、負債の部に長期借入金として記載する。
2 筑波大学統合報告書2022の作成・公表について	①掲載する写真については、読んだ人が筑波大学に対し好印象を持つように、もっとこだわって選定した方がよい。また、図や表もより多くした方が印象がよい。	①ご意見について承知した。可能な限り対応していきたい。
3 開発研究センターの更新審査結果について	(特になし)	
4 第212回及び第213回教育研究評議会報告について	(特になし)	

○第135回（令和5年1月24日）

審議事項	学外委員からの意見	会議当日の回答
1 中期計画の変更について	(特になし)	
2 国際卓越研究大学への申請について	(特になし)	
3 令和4年度学内第2次補正予算(案)について	①「大学独自基金の拡充」は他大学と差をつけるポイントとなると思うが、専門の優秀な人材を採用するために、現在の給与体系とは異なる給与体系で給与を支払える仕組みの構築が必要だと考えるがいかがか。	①独自基金の拡充のためには、いかに独自の資金を集めるか、それをどのように運用するかが問題となるが、前者については、同窓会組織の体系化及びファンドレイザーの雇用を進めており、ファンドレイザーに対しては特別な給与体系を構築しているところである。後者については、他大学と連携してファンドを作ったうえで委託運用から始め、ゆくゆく

	<p>②国際卓越研究大学の将来像の中に、博士課程の学生支援についても言及されているが、どれくらいの規模を想定しているのか。</p> <p>③文系と理系をどう扱うか、女性等の割合をどう増やすか等が重要なポイントとなると思うが、どのような改革を予定しているのか。</p>	<p>は自家運用できる体制を構築していきたいと考えている。</p> <p>②博士課程に所属する学生全員が支援を受けられる状態を目指している。</p> <p>③文系と理系の問題については、本学は他の総合大学に比べて文系の割合が多いにもかかわらず、Top10%論文数で優れた実績を有しているため、更に文系分野の論文生産性を向上すべく、戦略的に強化すべき分野を選定して、その分野に力を入れている。また、本学では教育分野は既に分野融合になっているので、研究分野において分野融合で切磋琢磨できる場所を作りたいと考えている。 女性を増やす方策としては、夫婦での雇用や構内に子供のための施設を設ける等が考えられる。</p>
4 令和5事業年度における新規の長期借入金及び償還計画について	(特になし)	
5 令和5年度のゆりのき保育所における光熱水料の見直しについて	(特になし)	

報告事項	学外委員からの意見	会議当日の回答
1 令和5年度国立大学法人運営費交付金等予算案について	(特になし)	
2 重要財産の譲渡完了について	(特になし)	

3 開発研究センターの評価結果について	(特になし)	
4 筑波会議 2023 セッション企画の募集について	(特になし)	
5 第214回教育研究評議会報告について	(特になし)	

○第136回（令和5年3月22日）

審議事項	学外委員からの意見	会議当日の回答
1 令和5年度学内当初予算(案)について	<p>①前年度と比べると大幅に円安となっているが、全体の予算の中で外貨の割合はどの程度あるのか。</p> <p>②ミッション実現加速化係数による削減が4億円とあるが、これを原資にした割り戻しが6.6億円と理解したらいいのか。</p>	<p>①予算全体の中での割合についてはデータがないが、外国製品の購入や旅費といった部分で影響が出てきている。また、資金運用の一部をドル建て行っており一時的に評価損が生じているが、長期的に見れば回復できるものであり、仮にマイナスになったとしてもそれほど大きな額にはならないと考えている。</p> <p>②教育研究組織改革で2.7億円、基盤的経費で4億円を取り戻しており、プラスになっている。しかし、これらの経費は基本的に用途が決められているため、大学として柔軟に使える部分が減っている状況である。</p>
2 令和5年度資金繰計画(案)及び資金運用計画(案)について	(特になし)	
3 令和5年4月1日付け事務組織等の改編及び規則の見直しについて	①懲戒審査委員会の構成員は学内だけか。あるいは、外部の弁護士等の法律家も入っているのか。	①懲戒審査委員会の構成員自体は学内者となっている。ただし、重大な案件についてはほとんど全て

て		外部の顧問弁護士と密に連絡を取っているところである。
4 職員就業規則等の一部改正等について	(特になし)	
5 国立大学法人筑波大学組織評価規程の一部改正について	(特になし)	
6 統合 IR 機構の設置及び設置に伴う法人規則等の制定等について(案)	(特になし)	
7 令和5年度におけるウクライナからの学生等の支援に関する特別措置について	①今後、対ロシアや中国に対する知的財産の海外流出や経済安全保障法が厳しくなっていくことが想定されるが、これらに対して何か対処方針があるのか伺いたい。	①留学生に関しては特別な取り扱いはしておらず、学内で学びたい人は学べるという状況ができており、また、そうしたメッセージも発出したところである。
8 アイソトープ環境動態研究センター改組に伴う法人規則等の一部改正について	(特になし)	
9 国際卓越研究大学への申請について	①今の大学政策は、ある型を想定して型にはめようというような志向が続いている。本事業は現時点では未確定要素が多いが、だからこそ大学の自主的な判断というものを買っていくという心構えで臨んでほしい。	①承知した。特にマネジメント・ガバナンス体制に関して、現存の学校教育法ならびに国立大学法人法と矛盾する公募要項になっているため、正確に法律を解釈しながら申請書の作成を進めているところである。
10 筑波大学における役員の業績勘案率について	(特になし)	
11 役員等の報酬について	(特になし)	

報告事項	学外委員からの意見	会議当日の回答
1 令和5年度役員・役職教員について	(特になし)	
2 マレーシア海外分校の設置申請について	①現地名称を教えてください。	①University of Tsukuba Malesiaである。
3 デジタルイノベーション推進機構の改組及び改組に伴う法人規則等の制定等について	(特になし)	
4 定量的評価指標に基づく組織評価結果による資源の配分について	(特になし)	
5 Tsukuba Global Science Week 2022 の実施概要について	(特になし)	
6 第215回及び第216回教育研究評議会報告について	(特になし)	